

アタシたちふたりなら無敵 イクとこまでいくわ



ベーゼ・モア

BAISE-MOI

UN FILM DE VIRGINIE DESPENTES ET CORALIE TRINH THI
AVEC RAFFAËLA ANDERSON ET KAREN BACH

PRODUIT PAR PHILIPPE GODEAU AVEC LA PARTICIPATION DE CANAL+ SCÉNARIO ET DIALOGUE DE VIRGINIE DESPENTES ET CORALIE TRINH THI
PRODUCTION EXÉCUTIVE DOMINIQUE CHIRON DIRECTEUR DE LA PHOTOGRAPHIE BENOÎT CHAMAILLARD SON ÉRIC BOISTEAU MONTAGE AÏLO AUGUSTE
MUSIQUE ORIGINALE COMPOSÉE, ARRANGÉE ET RÉALISÉE PAR VAROU JAN © 2000 PAN-EUROPÉENNE PRODUCTION / CINÉ VALSE

監督×脚本:ヴィルジニー・デバント×コラリートラン・ティ 出演:ラファエラ・アンダーソン×カレン・バック 原作:ヴィルジニー・デバント(『バカなヤツらは皆殺し』原書房刊) オリジナルサウンドトラック:東芝EMI 提供:コムストック×ボニーキャニオン 配給:コムストック

www.comstock.co.jp

「出会ったなんて驚き。驚きどころか運命の瞬間」

互いに大事な人を殺し、運命的に会ったふたりの女の子が、意気投合し、あてのない逃避行の旅に出る。現金や銃を強奪し、男を誘惑してセックスしては殺していく“無敵のガールズ”ナディーヌとマニュの行き着く先は・・・？
強く結びついたふたりの孤独な魂が求めた壮絶な“ファイオレンス&セックス”を描く21世紀のガールズ・ムービー。
フランスの若者に絶大な人気を誇るバンクな女性作家ヴィルジニー・デバントの大ベストセラー小説を、本人自ら、元ポルノ女優の友人コラリー・トラン・ティとともに完全映画化。あまりの過激さゆえに、公開1週間でフランス映画史上前代未聞の上映禁止処分を受け、ゴダール、ソニア・リキエルら文化人による抗議運動を始めとする社会的な大論争を巻き起こし、現在も係争中の衝撃の問題作。

*C'est quand même surprenant qu'on se soit rencontrées ce jour là, hein?
Non, c'est pas surprenant.
C'était le moment où jamais.*



マニュは、ばつとしない生活にも、不満を胸一杯にためこんだま口を閉ざしていることにも慣れてこだった。心の中にあるのはただ一つ、癒しきれない渴望感だけ。欲しいのはセックスにビールにウイスキー。楽になれるなら何だっていい。度を越したものが好きで、暴走しているものは何でも面白いと思うマニュは、自分でも道に外れたスケールの大きなことがしたかった。ある日、友達のカルトと、三人の男にレイプされる。命だけは守るため、マニュは抵抗しなかった。胸の痛みは度を越すと感じなくなる。いつも最後には自分をそう納得させる。マニュの兄はそのことを知ると、マニュを気遣うより、男たちに仕返しに行こうとする。カッとになって兄を撃ち殺したマニュは、外へ出て駅前まで歩いた。



ナディーヌは娼婦をしている。この仕事は気に入っているが、誰にも話したことはない。恥ずかしくはない。進んで墮落するには勇気があるから、そのことには誇りがある。だから、何も知らずに自分を軽蔑する奴らを、軽蔑している。ときどき無性に何かを壊したくなる。それも何か神聖なものを。ある日家に帰ると、同居人のセヴェリーヌがわめいていた。勝手にウイスキーを飲んだこと、片づけないこと、同居するなら相手を尊重して・・・セヴェリーヌはきれいで上品で洗練されてるけど、わかったような顔

であたしにうとうしい意見を押しつける権利はない。考えるより先に、両手が彼女の首を絞めた。我に返ると、彼女は息絶えていた。ナディーヌは最終の電車に乗るために駅に急いだ。



BAISE-MOI

Virginie
DESPENTES
XXX
Coralie
TRINH THI

「やった直後は猛烈にイヤな気分でした。泣きたかった。まるで地獄。でも今は、ものすごくいい気分」

まるで自分の半身であるかのように、わかり合い、信じることができる唯一無二の人と出会えたことで、“無敵”の存在となり得たナディーヌとマニュは、世間とはきっぱり決別し、これまで抑えていたすべての欲望を、本能のままに爆発させる。何にも縛られることなく、自分のしたいことをするふたりの極端なまでの“生き方”が、なまめく生きている者すべてを挑発する。バンクにすべてを教わった「生まれながらの反逆者」ヴィルジニー・デバントと友人のコラリー・トラン・ティ、そしてナディーヌとマニュに完璧になりきった元ポルノ女優のカレン・バックとラファエラ・アンダーソン。4人の女たちがしかけるぶつちぎりのガールズ・ムービーが、ついに日本を挑発する。

BAISE-MOI = FUCK ME

ベーゼ・モア

監督×脚本: ヴィルジニー・デバント×コラリー・トラン・ティ
出演: ラファエラ・アンダーソン×カレン・バック
2000年/フランス映画/74分/ヴィスタ/ドルビーSR
原作: ヴィルジニー・デバント「バカなヤツらは皆殺し」原書厚刊
オリジナルサウンドトラック: 東芝EMI
提供: コムストック×ボニーキャニオン
配給: コムストック www.comstock.co.jp

春、無敵のロードショー!!

特別鑑賞券 ¥1,500 絶賛発売中 当日料金: 一般 ¥1,800 / 学生 ¥1,500
高校・シニア ¥1,000
劇場窓口にてお買い求めの方に“オリジナル・ステッカー”プレゼント



シネマライズ

渋谷公園通り バルコパート3 前
TEL. 03-3464-0051
e-mail: rise@cinemarise.com